

# 令和2年度 学校評価アンケート分析

令和2年10月実施

## <結果と分析>

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
教務部	1	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の合計が生徒は増加しているものの、保護者は減少した。定期的にどのような学習活動が行われているかを保護者へ伝えていく方法を考えなければならない。	今年度は中止となった「学校開放週間」を次年度は開催できるように対応を考えたい。また、学校のホームページを通じて発信できるように検討する。
生徒指導部	2	生徒、保護者の中では、概ね指導されている環境と認識している。しかし、教員側での評価は低下している。教員間での基本的な生活習慣への指導に差異が生じていると分析できる。	教員が基本的な生活習慣、挨拶や身だしなみ、言葉遣いなどの指導を徹底する必要がある。
進路指導部	3	およそ9割程度が肯定的な解答をしており、進路を100%保証する学校を目標として進路指導をおこなってきた成果が認められてきているものと推測する。昨年度に比べると保護者と教員で評価が下がっており、臨時休業等の影響により、進路行事が削減されたり、時期を移動したことが、このような結果となったと思われる。	進路行事の内容の見直しや時期等の検討を再度おこない、進路指導部と年次間や学校と保護者との連絡を密にし、生徒が進路の問題を自分自身の問題として受け止め、解決する過程を通じて、自分の意志と責任で自己の進路を選択し、その実現に向けて取り組んでいけるよう取り組みを強化していきたい。
保健厚生部	4	カウンセリングルーム通信やほけんだよりを通して保護者へのアナウンスを行ったが、届かない保護者がやや増加している。カウンセラー紹介と説明をするPTA総会が中止になったことも影響する。生徒については校内の教育相談について理解が進んできている。	カウンセリングについてのお知らせを三者面談で手渡ししたり、カウンセリング日程についてメールで配信するなど、保護者への周知方法を検討して改善を図る。
生徒指導部	5	部活動については運動部の加入率は改善してはいないが、少人数の部活動でもしっかりと活動している部活動数は増加している。その結果、評価が高くなったと分析する。	運動部や文化部で実際に活動している生徒が増加するよう教員側での環境作りを積極的に行う。部活動が生徒の安心安全な居場所であるよう教員の積極的な取り組みが必要。
	6	生徒会の活動が、コロナ禍の中縮小せざるを得ない状況となり大きな活動ができない状況であった。このような状況でもできることを模索しながら取り組む姿勢が多く見られた。	学校行事や校外活動など今年度の経験を踏まえ行事の精選と新しい企画を準備したい。
	7	コロナ禍により学校行事の中止や規模縮小しての実施が多くなった。学校行事の中では準備段階からの生徒のしっかりした取り組みが見られる。	コロナ禍の中での学校行事の在り方や企画を今年度の反省を踏まえ検討したい。生徒の達成感や活躍できる場としての学校行事を検討したい。
教務部	8	地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりについて、昨年度よりも満足度が低下した。新型コロナウイルスの影響で学校開放週間が中止になったことが一因と考える。情報発信が課題である。	今年は学校開放週間が中止となったため、保護者宛文書の発行も行わなかった。次年度は、学校開放週間について、ホームページや伊具高メールなどで情報発信を行い、保護者の方に広く知ってもらえるよう取り組みたい。
総務部	9	災害・非常時の通学方法や連絡方法については、昨年より保護者が向上したと回答しているが、生徒の認識が低い状況にある。	入学時に「緊急連絡カード」に記載されており、保護者が届け出ているので、緊急時の対応について家庭でよく話し合い対応するよう学校から働きかけたい。
	10	学校の情報は、学校便りやホームページ、eメール等で伝えられている状況である。	引き続き学校からの情報発信がスムーズにできるように連絡調整をはかり、計画的に進めたい。

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
事務部	11	概ね、肯定的な回答であったが、令和元年度と比較して、生徒の評価が14.9ポイント、保護者の評価が6.7ポイント下がったしまったことが気になる。その原因が昨年度の台風19号の被災による農場復旧の遅れなのか、施設の老朽化等(和式トイレ)が原因なのかさだかではない。ただ、昨年度から今年度にかけて、各普通教室に簡易的な窓用エアコンを設置するなど暑さ対策の実施、生徒からの要望のあったテニスコートの整備にも取り組んで参りました。	来年度、普通教室に本格的エアコン設置予定であり、トイレ洋式化改修についても、設計が令和4年度、工事施行が令和5年度の予定である。引き続き、施設設備の整備については、県教育委員会・関係各課に要望して参ります。
生徒指導部	12	いじめアンケートを家庭で回答する形にすることで、保護者がいじめに対する取り組みを実感できた。3種類のアンケートを実施することでより生徒のストレスなど具体的に把握できる態勢となった。	年4回の記名式いじめアンケートの実施といじり行為の発見時の指導で早期の対応ができる環境を構築する。
	13	コロナ禍により2ヶ月の臨時休業や学校行事の中止や規模縮小しての実施が多くなり、生徒にとってはストレスのかかる学校生活となった。その中でも目標を失わずしっかりした学校生活を送る生徒が数多かったことが保護者・教員の評価と考える。	魅力ある学校づくりと安心安全な学校、将来に向けての確かな学びの場であるよう環境を整えたい。
教務部	14	教育目標については学校からのお便り等で再確認することができるが、系列目標は視覚的に確認する機会が少ないことが「当てはまる」と回答する割合の減少と考える。	授業や様々な教育活動を行う中で、折に触れて系列目標を確認し生徒の認識や意識を高めていきたい。
	15	シラバスへの記載や定期考査等の学習の振り返りの時など機会を見て説明を行っているため「当てはまる」と解答する割合が高い状態を維持できている。	評価方法については生徒、保護者ともに特に関心が高い部分である。日頃の学習活動の中でも分かりやすく丁寧な説明を続けていきたい。
	16	昨年まで「科目選択ガイダンス」は年次ごとに集集を持ち、各科目担当者から授業内容の説明を行った。今年は各教室にて、共通資料のもと担任より説明を行った。説明方法の変化もあり「あまり当てはまらない」と解答する割合が上昇したと考えられる。	説明の時に使用する資料を見やすく、わかりやすく改善して次年度の「科目選択ガイダンス」を実施したい。
生徒指導部	17	生徒に対しては年度初めのLHRで校則等の確認を行った。また、保護者に対しては、高校生活の手引きを配布することで校則等周知している。生徒指導研修会を年度初め実施し教員にも指導の研修を行っている。	今年度の取り組みを継続し、さらに身だしなみや基本的な生活習慣の指導を徹底したい。
進路指導部	18	生徒・保護者・教員ともに、昨年度よりも肯定的な評価が減少している。特に保護者の解答が顕著である。今年度は月に1回程度発行している進路通信「夢を形に」を、学校のホームページからも閲覧できるようにしたが、認知度が低いか欲しい情報の齟齬があるのかも知れない。また、今年度は入試方法が変更になったことや就職も日程が変更になったことも原因の一つと思われる。	進路通信については今後の進路活動をどのようにおこなっていけば良いかの道筋が立てられるような内容を取り入れるとともに、生徒・保護者が気軽に進路相談ができるよう体制を整えていきたい。そのためにも進路情報の収集に努めていきたい。
	19	保護者の3分の1が否定的な意見を持っており、生徒の考えと相当な乖離がある。2・3年次において保護者を対象にした学習会や説明会を開いているが、参加者が少なく、家庭で進路を話題にする機会が少ないことが原因かと思われる。	進路関係の体験的学習や「産業社会と人間」・進路LHR・ガイダンス等で系統的に進路について考えていけるように、それぞれの内容を見直すとともに、生徒と保護者が進路について話し合える機会を創出していけるように働きかけをおこなっていきたい。
保健厚生部	20	時節柄、健康への不安が増加しているところ、配慮を感じる生徒が大幅に増えたことは、教職員による消毒などの目に見える尽力があると考えられる。反面多忙による教職員の健康への不安は増加している。	不安を感じる少数の生徒にも目を配れるような余裕の創出が必要である。すべての改善策は教員の負担増にならないよう実施されるべきであり教員やサポート人材の増員が必須である。
総務部	21	授業や休み時間の図書館利用について、教員のおよそ9割程度が肯定的な回答をしているのに対して、生徒・保護者はおよそ半数以上が否定的な回答をしており、両者に大きな乖離が見られる。毎月1回図書館だよりの配付とHPへの掲載を行っているが、教室から遠いことや図書館そのものの認知度が低いことから、足が向かないと考えられる。	図書館だよりの教室掲示などを行い、図書館への認知を図る。また、図書委員の活動の中で、各クラスでの広報活動など図書館利用につながるような活動を工夫していきたい。授業では計画的に図書館利用を行っているので、その意義をしっかりと伝え利用回数を増やしたい。